

# 水稻の葉色診断で 高温対策を実施しましょう！

令和2年7月2日  
埼玉県農林部

## 向こう3か月の天候の見通し

気象庁が6月24日に発表した向こう3か月の天候の見通しでは、7～9月の平均気温は「高い」と見込まれています。

登熟期間が高温にさらされる可能性がありますので注意が必要です。

## 水稻の生育状況

水稻の生育は、現在、各作型とも概ね平年並みです。

早期栽培では穂肥施用時期を迎えています。葉色は平年より淡い傾向にあります。

## 対 策

### 1 葉色確認と穂肥（彩のかがやき）

早植栽培では出穂前 22～23 日頃、普通期栽培では出穂前 25 日頃に、葉色板で「4」以下の場合は窒素成分で早植栽培は 3kg/10a、普通期栽培は 2kg/10a 程度追肥しましょう。それより濃い場合は葉色低下を待ち 2kg/10a 程度を施用しましょう。基肥一発施肥体系でも葉色の低下が著しい場合には追肥を行います。

さらに両作型とも出穂前 10 日頃に再度葉色を確認し葉色板で「4」以下の場合は 2kg/10a 程度追加施用しましょう。

### 2 水管理

穂肥施用後は湛水し、出穂前後 1 週間は深水管理とし、それ以降は間断かん水を行行します。間断かん水を行う場合は 1 週間をサイクルとし、湛水と断水を 3～4 日で切り替え根の活力維持に努めましょう。

かけ流しかん水は、用水不足を招き、結果的に高温障害を助長する恐れがあるので絶対にやめましょう。

**農作業中の熱中症にご注意ください。**